



大阪北ブロック 豊能支部  
(株)グリーン・アート  
松本 直樹

まず、箕面市をご存知ない方のために書いておこう。「箕面」と書いて「みのお」と読む。焼酎の「魔王」や「村尾」と同じイントネーションで「みのお」と呼ぶのが正解だ。箕面を一言で表現するなら「北摂の自然に囲まれたほのぼのとしたベッドタウン」。コテコテでないちょうどいい街、授業は標準語、それが箕面。

箕面の名所のトップ1はなんといっても「箕面の滝」。ここしかないのだ。阪急箕面線箕面駅から約2.8km、滝道を歩いて約35分で到着。高低差33mの滝。大阪府内でのワンデイトリップに最適、箕面の滝の特徴は、すべて「ちょうどいい！」なのだ。



箕面川に沿って滝道を歩いてみる。何層にも枝が張り出す、夏から秋にかけてのもみじがおすすめだ。私が高校生のころは極悪利巧なサルたちが婦人からブランドバックをひたくり、小銭で自動販売機のジュースを買っていた。今ではすっかり山に帰り、婦人もJKも安心して歩くことができる。そして箕面の滝はなんといってもちょうどいい引き返しのポイントなのだ。夜の街のラーメンのごとく、帰るタイミングなのである。麓まで戻り箕面ビールを飲む。疲弊した現代人にはほどよい疲れとリフレッシュを堪能できる。実にちょうどいいのである。

滝壺になだれ落ちる水しぶきはマイナスイオンを作り出し、お肌がしっとりとするような、喉の痛みが和らぐような、本当、滝は憩いの地ですね。有名なもみじの天ぶらは滝壺の周りの店で揚げたてが売られています。おいしいのは天ぶらの衣。中に入ったもみじはイガイガと喉にからみ、食べられたものではありません。（編集 西岡）